

2 クリへのかん水で収量アップ!! 品質アップ!! (2L以上80%以上)

ねらいと成果

近年、気象変動が著しくなり、クリの生育や生産は大きな影響を受けている。大果生産が望まれるクリでは、特に果実肥大期である夏季の干ばつは収量、果実品質を著しく低下させる。そこで、この時期の点滴かん水がクリ生産に及ぼす影響について検討した。その結果、定期的なかん水は果実肥大促進効果が高く、クリの大果生産に有効であった。

内容

6年生「筑波」で、かん水は幹から両側1mの深さ0.1mに埋設した点滴チューブ(かん水孔間隔60cm、かん水量2ℓ/孔/時間)を用いて行った。試験区は、果実肥大盛期の8月9日から収穫終期まで、毎日3ℓ/m²のかん水を行う(かん水+降雨)区、降雨の影響を排除するため根域土壌表面をフィルムマルチした(かん水)区及び対照(降雨)区を設けた。

試験年は、7月末までは長雨が続き、8月下旬～9月中旬までは降雨があったが、8月上旬と9月下旬以降はほとんど降雨がなく、試験期間中の降水量は241mmであった(図1)。また、同じ期間中のかん水量は159mmであった。

収穫期は試験区間で明らかな差はなく、樹冠の大きさの差を考慮した樹冠面積1m²当たりの収量はかん水区が多かった(表)。また、果実の甘みと関連の高い果実比重は、かん水+降雨区とかん水区が高く、裂果はかん水区で若干みられた。果実の階級構成

成は、かん水+降雨区が2L以上の大果の割合が約90%と最も高く、次いでかん水区も約80%と無かん水の降雨区と比べて10%程度高かった(図2)。

以上のように、クリの果実肥大期の定期的なかん水は、ムラのある自然降雨条件より果実肥大促進効果が高く、両者を併用した場合の大果生産効果は一層高くなった。

今後の方針

自然降雨の時期と量の影響を詳細に解析するとともに、より効果の高いかん水方法や現地に導入しやすいかん水装置の設置方法について検討する。

水田 泰徳(農産園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2424)

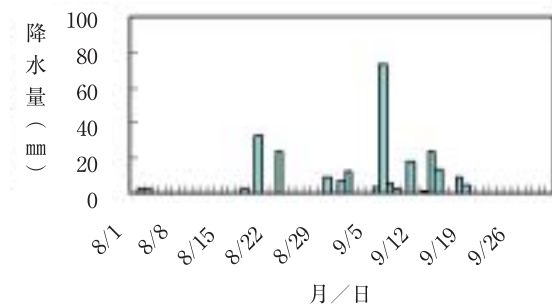


図1 試験期間中の降水量

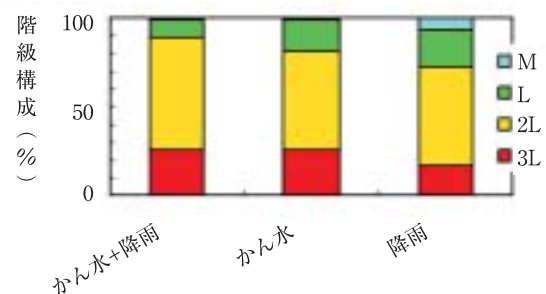


図2 かん水、降雨と果実の階級構成

かん水、降雨と収穫期、収量、果実品質

試験区	収穫期(月/日)			収穫(kg/樹冠面積m ²)	果実比重	裂果率(%)
	始期	盛期	終期			
かん水+降雨	9/22	9/27	10/6	0.8	1.052	0.0
かん水	9/22	9/29	10/6	1.1	1.049	1.3
降雨	9/25	9/27	10/6	0.9	1.025	0.0